

第33回 縮小社会研究会報告



45名参加

時：2016年3月26日（土）13時45分より

所：京都大学 文学部新棟 第3講義室

講演会 13:45-15:30

講演1. 「ベーシックインカムの哲学的背景と貧困」 小川正嗣

現在、新しい社会保障の形としてベーシックインカムが提案されていますが、それは結局どのような背景を持ったものなのでしょうか。パリスの議論を紹介したいと思います。さらにそれに関連して貧困問題を考えます。



講演2. 「縮小社会に向けての科学・科学技術の課題」 尾崎雄三

科学・科学技術はこれまで人類社会に豊かさをもたらしたが、負の側面も問題化し、限界も見え始めている。さらに進歩が期待される一方、社会の縮小が余儀なくされており、その中で科学・科学技術の直面する問題を考えたい。



講演3. 「自宅でできる炭酸ガス半減」 仲津英治（「地球に謙虚に運動」代表、NPO法人エコネット近畿理事）

創エネ&省エネ・省資源の試みにより、日本の平均家庭が出す炭酸ガス発生量年間約4.8トンを半分以下の2.2トンに出来た実践例を示します。創エネは、太陽光&太陽熱の利用そして省エネ・省資源は、心がけ如何です。



講演4. 「ハンブルク市ハーフェンシティの挑戦 – 石油資源減耗後の都市生活について考える –」 五十嵐敏郎 (金沢大学)

20 世紀の文明を支えてきた石油資源の減耗が 21 世紀半ばまでに現実化するなかで、21 世紀も人口の大都市への集中が引き続き起こると予想されている。石油減耗時代に対処するためには、大都市の持つ物質的な豊かさよりも地方の持つ精神的な豊かさに魅力を感じるように、地方で雇用を創出して大都市に住む住民を誘導していくという考え方が本命であろう。しかし一方で、大都市への集中が必然であれば、大都市を精神的な豊かさに魅力を感じる都市に変えて行くという発想も第2選択として必要と思われる。



講演では、ドイツ第2の大都市であるハンブルク市が 21 世紀型の新都心として建設中のハーフェンシティを取り上げ、その理念や計画の進め方について触れるとともに、大都市に精神的な魅力をもたらすためには何が必要かについて自説を述べる。キーワードは大人のためにサンマ作りである。

特別セッション1. 15:45-17:30 『田園回帰』を「Think Globally」につなげる コーディネータ 長谷川浩 (福島県有機農業ネットワーク)

世界人口は爆発的に増え続けおり、今世紀末には 100 億人に達すると予測される。人間の経済活動は 1980 年代から地球の環境容量を上まわっており、このまま経済成長を続ければ、ローマクラブが予測したように文明の破綻は免れない。

破綻を免れるには、本会が提案しているように先進国は経済活動を縮小するしかない。大都市から田舎に分散して居住し、自然の中で農的な暮らしをするべきである。近年になって、20 代から 40 代の世代が大都市から田舎を目指す『田園回帰』の流れが注目されている。2014 年には 1 万人余りが田園回帰したと推計されている。『田園回帰』はいわば「Act Locally」を実践するものである。田園回帰を目指し実践する人たちが、同時に「Think Globally」の視野を持つことが縮小社会の実現に必須であると考え、本企画を行うものとする。



特別セッション2. 15:45-17:30 「みんなで考える縮小社会での教育」

コーディネータ 漁野亨 (分科会 12)

各グループに分かれて (できれば4~5人×2~3班程度)、現在の教育の不満や問題点を出してもらい、少しでも縮小社会での教育の方向性が出てくればと思っています。それをもとに縮小社会での教育像を今後考えていき、その中で現在の教育に生かせるものが一つでもあればそれを提言していければと思います。今回はその手始めとして、初等教育(幼稚園・小学校)の問題点または不満あるいは改善点を出し合って、初等教育で目指す方向性が少しでも見えればと思います。また中等教育(中学校・高等学校)も各グループで考えてもらって中等教育での明らかな問題点が一つでも明らかになればと思っています。もちろん、高等教育(高専・大学)の問題点や教育課程全体(2、6、3、3、4+5制)や1年のサイクルの問題(4月始まり、3月終了)も話題にできればと思っています。

とにかく今の教育のここが問題、あるいはここが不満というところを少しでも言えるような形で討論ができればと思います。そしてその改善方法がおぼろげでもイメージできればと思います。

懇親会 : 17:45 -19:30 29名参加